

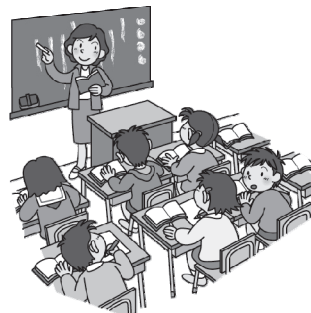
# 野村小学校地域懇談会ニュース

## 「第3号」

平成22年7月20日発行

今後の野村小学校のあり方等について、3回目の懇談会が開催されました。その概要を学区内にお住まいの皆様にお知らせします。

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| <b>第3回 地域懇談会</b> | 1. 議事（テーマ：一定規模確保の必要性） |
| 日時：平成22年6月4日（金）  | （1）学校現場で思うこと          |
| 19時～21時          | （2）実現すべき教育環境          |
| 場所：野村小学校 体育館     | 2. その他                |



### 1.（1）学校現場で思うこと

これまでの懇談会では「確かな学力の育成」といった視点から「一定規模確保の必要性」について説明がありましたが、今回は、主に学力以外の部分を中心に、学校現場での経験談を踏まえて次のような説明がありました。

- ① **へき地にある学校に勤務して** 学校長として小規模校に勤務した経験談がありました。

#### 学校の概要

勤務した学校の全校児童は21名（平成20年度）で、完全複式学級（※）でした。

※複式学級…複数学年の児童生徒で編制される学級（学級編成の基準は県が定めており、基本的に1学年40人以上であれば2クラス、16人以下だと2つの学年を複式にして編制。1年生は特例。）

豊かな自然や里山など、人間生活と調和した田畑や森がありました。また、地域ではぐくまれてきた豊かな伝統・文化、一人ひとりに目を向けた学年を超えた教育や異学年、異年齢間の学びがありました。

・・・しかし、多くの児童がいる中での集団的な学習経験をさせられなかったり、多様な考えに触れながら社会性を育てていくことが難しくなります。  
また、複式学級であったために、教師の授業準備に2倍の時間と労力がかかったり、終日の研修へ職員を派遣することが難しかったりなどの面も出ていました。

なるべく複式を解消し、わかりやすい授業を展開するなど、学校を挙げて努力していた点は多々ありますが、学校行事（修学旅行、宿泊訓練等）や社会科見学等の一人あたりの経費負担、子供たちの中学進級時のギャップの心配等、どうしても学校の努力だけでは解決できないことも多くありました。

子供たちのよりよい教育環境を考えると、小規模校はやはり課題が多いように思います。

**小規模校は子供にとってどうなのかという視点で検討していく必要があるのではないのでしょうか。**

- ② **統合校に勤務して** 教頭として統合前後2年間勤務した経験談がありました。

勤務した学校に隣接校の児童28名が来ることになり、135名になりました。

統合に際しての保護者との懇談では、統合なのか吸収なのか話題になりましたが、よい学校をつくらうと、少しずつ統合に向けた前向きな話ができるようになりました。



#### （1）統合にいたるまで

##### 児童間の交流

子供たちが安心して学校生活を送るために、運動会や学習発表会などで児童間の交流を図り、子供たちは同学年の友達を確認していきました。また、PTA行事では、親子で交流をする機会をつくり、保護者間での交流も図っていきました。



##### 登下校の安全

統合にともないスクールバスを運行することになりました。

##### 特色や伝統

隣接校が行ってきた「冬の野外合宿」を取り入れるなど、お互いの良さを継続することにしました。また、地域の伝統になっているそれぞれの踊りも放課後や休み時間に継続して練習していくことにしました。

## (2) 統合後の様子

- 初めは授業でなかなか意見が言えない児童もいましたが、少しずつ大勢で暮らすことに慣れてきました。
- サッカーやドッジボールなどの集団スポーツでは、お互いを励ます元気な声が響くようになりました。
- 勉強やスポーツで1番だった子供が自分よりすごい友達がいることに気付いていきました。これは、学習意欲の向上に繋がりました。
- 運動会の雰囲気が大きく変わりました。自分の子供の競争（競走）相手が増えて応援も過熱しました。また、入場行進も子供の数が増えることで迫力が増しました。
- 町内 PTA 主催のバレーボール大会は参加者数が増え、保護者の行事も活気づきました。
- 統合当初は子供同士のトラブルで悩み、担任が相談にのるケースもありました。
- 保護者の数が増えることで、多種多様な願いを色々な方にできるようになりました。
- バス代や卒業アルバム代など保護者の経費負担が少なくなりました。
- 教員が増えたことで、指導力向上のための話し合いが活発に行われるようになりました。



## (3) 小規模校の「よさ」に関連して

小規模校だと「きめ細かな指導」ができる、「児童理解」や「生徒指導」がしやすいなど、保護者が安心をしている部分もありますが、本当の意味での「きめ細かな指導」とは、子供の興味・関心や習熟度に基づいて分けたりすることにより、個に応じた指導にさまざまなバリエーションを生みだし、子供たちの可能性を広げることです。小規模校に勤務する先生は、縦割り活動や交流活動にも力を入れ、子供たちの可能性を広げるために工夫や努力をしています。しかし、これだけで小規模校の課題を解決しているとは必ずしも言えません。



### ③友達とのかかわり

担任として普段の学校生活を通しての経験談がありました。

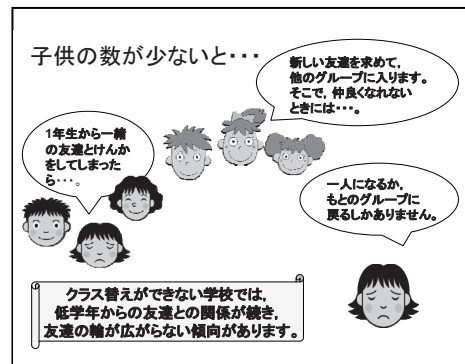
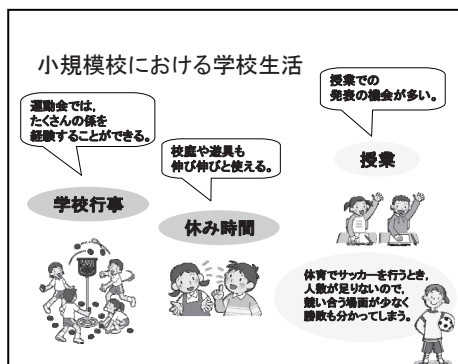
### (1) 一定規模の学校において

近所の友達グループと意見が合わないときがあっても、自分の考え方と合う新しいグループを見つけることができます。

クラスの人数が少ない場合は、友達の選択の幅が狭くなってしまうのが現実です。

学年が進むにつれ、女の子は女の子同士のかかわりを選ぶようになります。

男の子にも同様のことが言えます。



### (2) 小規模校において

クラスの人数が少ない場合は、最初のグループで意見が合わない場合は、他のグループに入るか、我慢して一人になるか、やはり我慢して元のグループに戻り、一緒に活動していくしかありません。我慢することも生活していく上で大切ですが、クラス替えがない場合にはその状況が6年間続きます。

### (3) 人間性や社会性をはぐくむために

子供たちは小学校生活において、授業・休み時間・放課後等あらゆる場面や機会を通して自分の思いや考えを相手に伝える力を伸ばします。このことは、大きく変わる中学校での生活に向けて、小学校でしっかりと身に付けることが大切な力です。学校生活では授業以外にも、休み時間を含め様々な時間や空間で、子供たちは多くのことを学んでいます。一定規模の人数が確保されている学校では、同じような力関係の中で、仲の良い友達をつくることができ、学校生活に大きな楽しみと潤いをもたらします。また、多くの友達とかかわることは、今の子供たちに必要とされる、コミュニケーション能力を育成することにもつながります。

## 1. (2) 実現すべき教育環境

「実現すべき教育環境」については、時間の関係から今回の懇談会の中で説明はありませんでした。

## 2. その他

事前に要望がありました「中高一貫教育」について説明がありました。

また、今後、野村地区以外の団体などから地域委員へ直接連絡がくるような場合は、事務局となっている教育委員会が窓口になることを確認しました。

### 【話し合いの主な内容】

#### 「1. (1) 学校現場で思うこと」について

**地域委員：**教育委員会は児童数にだけこだわって話をしているが、我々はこの地域や環境を重視しているので話が全然かみ合わない。また、小規模校での経験談だけでは、初めて聞いた人は不安になるので、大規模校での経験談も話すべきだ。

**教育委員会：**大規模校にも勤務しましたが、人数が多すぎることも問題だと考えています。子供のことを考えた場合、児童数がどのくらいだといいのか考えていかなければいけないと思います。



**地域委員：**複式学級で2つの学年を一人の教師が指導する場合、準備に2倍の時間と労力がかかるのか。

**教育委員会：**教師は教材を考え、問題を投げかけ、解かせ、習熟させるという流れを作りますので、2つの学年を持てば、子供の数が少なくてもやはり2倍の労力はかかってしまいます。

**地域委員：**先日、全校児童数が350名程の小学校の運動会を見た。その運動会では、徒競走で先にスタートした組がゴールしないうちに次の組をスタートさせたり、昼食も食べないで午前中に終わらせていた。野村小の場合は、昼食をはさむので祖父母と触れ合う機会があり、温かさを学ぶことができる。小規模校から大規模校へ行くと、このような教育をされるのではないかという不安でいっぱいになる。

**地域委員：**先日、自分の子供の出番が終わったからと運動会中に買い物をしていた他校の保護者と会った。野村小では、保護者は子供たち全員を応援するし、親や地域の方も一緒に参加する自慢の運動会である。

**教育委員会：**お話のような徒競走を行う学校に勤務したこともあります。複数のクラスがあったので、玉入れなどでは競い合いがありました。それぞれの学校で、やり方によってもメリットとデメリットの両方があるのではないかと思います。

**地域委員：**保護者は、学校を通し子供の成長と共に学んでいく中で保護者同士が友達になり、その家庭に子供が遊びにいき、人の常識を学んでいく。つまり、学校と地域が一体になって子育てをするのがどのくらいの規模かということについて、教育委員会は間違った考えを持っていると思う。

**教育委員会：**地域とのかかわり合いについて、子供は友達の家に行って遊び、その家の人とかかわります。地域が広がれば、それだけ子供にとって友達を選ぶ選択の幅も広がります。

**教育委員会：**野村の地域は素晴らしいと思っています。ただし、児童数の少ない現状が本当にいいのかということは考えていきたいと思っています。

**地域委員：**校長、教頭の経験談については、複式学級の状況や統合校の地域性という部分で、どちらも野村にはあてはまらない。また、野村は昔からスポーツも優れていて、大規模校にひけをとっていなかった。競争力が弱いという話もあてはまらない。野村が素晴らしいということであれば、統合する要素は何もないではないか。野村小では何が心配なのか、もっと説得力のある話を検討してもらいたい。



**教育委員会**：野村小学校は法令的には複式学級となる学校ですが、宮城県と仙台市が教員を加配してカバーしています。そのカバーがなくなりますと、複式学級になってしまうことも心配です。

**地域委員**：小学校の時から競争ばかりしていたのでは、児童が良い方向に成長していかないのではないか。

**教育委員会**：一定規模の確保は、子供たちに競争をさせるために行うわけではありません。競争させることも子供たちの将来を考えた時には必要な場合もありますが、それが目的ではありません。

**地域委員**：少人数の状況では、人間性や社会性ははぐくまれないのか。

**教育委員会**：少人数で人間性がはぐくまれないということはありません。子供たちがどのような力を高めていくのかということを考えた場合、より良い環境を子供たちに与える必要があります。

**地域委員**：○複式学級は子供にも教師にもマイナス面が多い。県や仙台市がカバーして全ての学年に先生をつけるべきではないか。統合を議論する前に、複式学級をやめるという議論がなされるべきではないか。  
○資料に「小規模校は子供同士のかかわりより、大人とかかわる機会が多く、依存度が高くなりがちです」とあるが、依存度の高さは何を根拠にしているのか。

**教育委員会**：大人がなるべくかかわらず子供同士で色々とやるのもよいと思っていますので、複式学級の解消のために教師を加配することで小規模校の課題が解決するわけではありません。また、教員をしての実感として、小さな学校の子供はどちらかというと先生に頼りたがる場所があります。

## 「2. その他」について

**地域委員**：中高一貫校はどのような意図で始めたのか。また、今後増えるのか。

**教育委員会**：これから増えるかどうかはわかりません。中高一貫校は、中学校3年間で学ぶことと高校3年間で学ぶことを6年間で達成することになります。高校入学時には、中学校の復習をよく行いますが、一貫校では復習の時間が省け、部活動や勉強に力を入れることができるようになります。

## その他意見

**地域委員**：○子供の人数が多ければドッジボールやバスケットボールなどができるが、それだけが休み時間の遊びではない。小規模校なりの遊びもあり、メリットだとは思わない。

- 資料の中で「一定規模の学校では、同じような力関係の中で、仲のよい友達をつくることができ、学校生活に大きな楽しみと潤いをもたらす」とあるが、小規模校でも同じである。一定規模の確保によって学校の楽しさが決まるものではないのではないか。
- 人数が多ければ、多人数の場で話をする機会は確かにあるが、その機会が回ってくる順番は少ないと思う。野村には機会の多さというメリットがあるのではないのか。



### 第4回地域懇談会の開催日程につきましては現在調整中です

野村小学校の保護者の皆様と地域にお住まいの皆様は、地域懇談会を傍聴することができますので、詳細が決まり次第別途お知らせいたします。

どのようなことでも結構ですので、ご意見がありましたらぜひお寄せください。

事務局：仙台市教育委員会事務局 学校規模適正化推進室

電話：214-8432 FAX：264-4428

Eメール：kyo019031@city.sendai.jp

取組み内容はホームページでもご覧いただけます

仙台市教育委員会 一定規模確保

検索